

Serenade

W.R Heykens

セレナード

ウェルナー・リカルド・ハイケンス作曲

作者は1896年に生まれ1961年に逝いた比較的新しい主としてドイツで作曲活動した人であるが、第二次大戦末期に親独派と見做され逮捕され、獄中で自殺したと伝えられる。

本邦では、国鉄の特急「はと」その他の幹線、ローカル線の車内放送に組み込まれ、又NHKの90%の高聴取率を誇った「前線へタベ」番組のテーマ曲として流れたので誰知らぬ者のないほどに馴染み深いものとなった。

もともとマンドリン曲ではないのであるが、オリジナル曲の他に広く馴染まれたものも含める意図があったので加えた。

種々の編曲があるがここではドイツのウィルヘルム・ウォルベルシンのを用いた。

原作者はあまり著名ではないので、いづれの音楽辞典にも記載されていないが、既に故人となった知友・鳥居諒二郎氏が古い版のベーカー音楽家辞典から見出されたので生没年も判明した。

氏は又終刊近いレステュディアンティナ誌も購読されていたのでラヴィトラーノの「凡ては去りぬ」も陽の目を見たのである。

追加資料

遺稿

中野二郎編著

「マンドリン ロマンの薫り」より